

国語科学習指導案

指導者 福山市立南小学校 岩井 美樹

1 研修テーマ ステップ アップ ～みんなで学びを楽しもう～

2 日時 令和5年10月10日(火) 第2校時

3 学年 第2学年A組 男子17名 女子15名 計32名

4 単元名 説明的な文章を読んで、感想を伝え合おう
「どうぶつ園のじゅうい」(光村図書 こくご二上 たんぽぽ)

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「(1)オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと」を受けて設定している。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するには、文章の内容を、自分が既に持っている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりし、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本単元で扱う「どうぶつ園のじゅうい」は、獣医師である筆者の動物園での1日の流れが、時系列に沿って、読み手に語りかけるように書かれている。段落の冒頭に時間を表す言葉が「朝」「見回りがおわるころ」「お昼前に」などと示されているため、そこに着目し、時間的な順序を意識しながら読むことに適している。

また、獣医師の仕事の内容についても例を挙げながら書かれているため、まだ知識や経験の少ない低学年の児童にとっても、仕事の内容を理解しやすい。獣医師の仕事を見たことがない児童でも、自分自身が病院にかかり、診察を受けた経験を想起しながら読むことで、自分の体験を結び付けながら文章の内容を解釈することができると思う。以上のことから、本単元のねらいに適した教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の時間的な順序を表す言葉を見付けることができる児童は7割程度である。内容の大体を捉えながら読むことができる児童は6割程度である。叙述の一部と自分の経験が重なっていることを話す児童は多いが、叙述とつなげて発言する児童はまだ3割程度である。授業を通して、少しずつ叙述を基に自分の考えを伝えることができるようになってきているが、まだ一部の児童に限られている。

また、感想を書く際に「〇〇がよかった。」「〇〇がすごいと思った。」など、一言のみの記述をする児童は6割程度である。まだ叙述と自分の体験とを結び付けて感想をもつ学習経験がほとんどなく、文章を読んで考えを形成する力を育成していく必要がある。そのため、振り返りや学習のまとめ等で、文章に書いてあることと思ったことがつながるように書く助言をしたり、感想を一言でしか述べられない児童には「どのようにすごい」などと付け加えるように支援したりしている。

その他にも、外国籍の児童も3名在籍しており、言葉や文、文章の意味的な理解が困難な児童がいる。その内、「言葉単位の理解はできるが文になったら理解が難しい児童が1名」「文単位では理解できるが文章の理解は難しい児童が2名」「音声では理解ができる、またはおしゃべりはできるが文字言語では理解が難しい児童が1名」である。また、3名のうち、国語の授業時間のうち週当たり2時間日本語学級に通っている児童が3名である。

(3) 指導観

指導に当たっては、次のことを意識して指導をしていく。

本校は「子どもとともに創り上げる授業」をテーマに掲げ、日々の授業作りを行っている。そのため、児童のつぶやきや発言を大切にしながら、単元をつくっている。一人一人が力を発揮できるように、常に教師の役割（ファシリテート力）を意識しながら指導を行っている。

本単元においては、児童が文章全体を見渡して学習が進められるよう、教材文をプリント1枚にしたものを配付する。また、それと同じものを拡大して掲示することで、話し手は根拠となる叙述を指し示し、聞き手は話し手がどの部分について述べているのかが分かるようにする。また、時間的な順序を表す言葉に線を引いたり、筆者の仕事について表に整理したりすることで、事柄の順序を理解し、写真と文章を関連付けながら内容の大体を捉えることができるようにする。

文章と自分の経験とを結び付けて感想をもつ際には、ワークシートに次のような工夫をする。

- ・「① 文章の内容」「② 文章の内容と結び付く自分の経験」「③ ①と②を結び付けて分かったこと」「④ ①～③を経て得られた感想、思い」を書く枠を設け、スモールステップで感想をもつことができるようにする。
- ・①～④の流れに沿って矢印を入れ、児童自身が思考の流れを意識しながら自分の考えを視覚化し、考えをまとめることができるよう、構造的に配置する。

6 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕（2）ア
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）ア
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

7 単元の評価規準

説明的な文章を読んで、感想を書きまとめる活動を通した指導【言語活動例 ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 <p style="text-align: right;">((2) ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えている。 <p style="text-align: right;">(C (1) ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。 <p style="text-align: right;">(C (1) オ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進んで, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち, 学習課題に沿って, 感想を書きまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
<p>文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。</p> <p style="text-align: center;">ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>①うえださんは、どうぶつ園を出る前には、かならずおふろに入ります。人間のびょうきのもことになるものをどうぶつ園の外にもち出さないために、おふろで体をあらわないといけない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>②家に帰ると、かならず手あらい・うがいをする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>③ぼくもうえださんも、びょうきをふせぐために、体をあらうということが分かりました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>④じゅういさんのしごとは、ちりようをするだけでなく、びょうきを広めないことも気を付けていて、しごとがたくさんあってたいへんなんだと思いました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>このように、じゅういさんのしごとは、ちりようをするだけでなく、びょうきを広めないことも気を付けていて、しごとがたくさんあってたいへんなんだと思いました。</p> </div>	<p>「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教室へ通っている児童もいるため、日本語教室の先生と連携をとりながら、自分の考えをまとめられるようにしていく。 表現方法を自分で選択できるようにする。例えば、ワークシート・ノート・タブレット等、自分にあつたもので表現できるようにする。書くことに難しさがある児童もいるため、タブレットの音声入力を活用する。 ワークシートに書く視点を示すことで、自分で考えられるようにする。(①は叙述について②自分の経験についてなど) 文章の内容と結び付く既存の知識や経験を想起できない児童には、叙述を基に問いかけ、考えを想起できるようにする。 解釈でつまづいている児童には、日常とつなげた発問をすることで、理解へとつなげるようにする。 ①～④でまとめたことを文章にまとめ直す際には、①が1段落目、②が2段落目…と、順序立てて文章にするよう助言する。その際、ワークシートに色を付け、視覚的に文章の順序と対応できるようにしておく。 主語や文末の言葉を補い、文や文章にすることについて、「書くこと」の学習で学んだことを想起させながら書かせる。 書字に難しさがある児童には、一人1台端末を用い、音声入力で文章化するように支援する。 	

思考・判断・表現

8 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法
一	1	題名読みを行い,その後全文を読んだ初発の感想を交流する。				
	2 ・ 3	全文を通読し,教材文の内容を確認する。 単元の流れを確認し,見通しをもつ。				
	4	どのような順序で書かれているのかを今まで学習した教材文と比較しながら捉える。				
二	5 ・ 6 ・ 7	筆者がいつどんな仕事をしているのかを表に整理し,まとめる。	○			[知識・技能] ノート,ワークシート,児童の様子 共通,相違,事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	8 (本時)	8段落の「お風呂に入ること」は仕事に入るのかどうかについて話し合う。				[思考・判断・表現] ノート,児童の様子等 ・「読むこと」において,時間的な順序を考えながら,内容の大体を捉えている。 ※本時では,指導に生かす評価にとどめ,第11時で記録に残す評価を行う。
	9	「毎日すること」と「この日だけしたこと」に分け,その違いについて考える。		○		[思考・判断・表現] ノート,児童の様子等 ・「読むこと」において,時間的な順序を考えながら,内容の大体を捉えている。
三	10	自分が仕事の中で一番驚いたことについて話し合い,自分の考えをまとめる。				
	11 ・ 12	教材文を読んで,考えたことや気付いたことをまとめる。 書いた文章を読み合い,感想を交流する。	○		○	[思考・判断・表現] ノート,ワークシートなど ・「読むこと」において,文章の内容と自分の体験とを結び付けて,感想をもっている。 [主体的に学習に取り組む態度] 児童の様子 ・進んで,文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち,学習課題に沿って,書きまとめようとしている。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

8段落の内容と自分の体験とを結び付けて、自分の考えをもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 全文を通読し、教材文の内容を確認する。</p> <p>2 前時までの学習を振り返る。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>4 自分の考えを整理する。</p> <p>5 「お風呂に入ること」は仕事なのかどうか考える。</p>	<p>○前時で作成した表を掲示することで、学習の振り返りやすくする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「お風呂に入ること」は、しごとなのかどうか考えよう。</p> </div> <p>・家に帰る前にしていることだから、仕事だと思う。 ・獣医さんの仕事は、動物が病気や怪我をしたときに治療をすることだから、仕事ではないと思う。</p> <p>□筆者と同じような経験はありませんか？ ●自分の経験と似ている場面を想起できるように、意見を交流する時間を設定する。</p> <p>◎仕事である ・動物園を出る前にしていることだから、仕事だと思う。どうしてかという、病気のもとになるものをつけたままだと、病気が広がる可能性がある。獣医の仕事は治療が主だけど、動物に関することなので、仕事に入ると思います。</p> <p>・私も動物園に行ったとき、ふれあいコーナーで動物を触った後に手を洗いました。植田さんも一緒に、帰る前に体を洗っています。動物園の中での出来事なので、仕事と言えらると思います。</p> <p>・8段落の最後に洗わなければいけないと書いてあるので、しないといけないことは仕事だと思います。</p> <p>◎仕事でない ・7段落で「1日の仕事の終わりには」と書いてあるので、日記を書くことが1日の最後の仕事だと思います。そのため、お風呂に入することはしごとではないと思います。</p> <p>・獣医さんの仕事は、1段落目に書いてあるように、動物が病気や怪我をしたときに治療をすることだから、お風呂に入って病気のもとを洗うことは仕事にはならないと思います。</p>	

<p>6 自分の考えを表現する。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 叙述に戻り，何の為に風呂に入るのかを考える。その際，自分の経験と似ている場面を想起し，考えをつなげられるようにする。 ● 考えを表現できる視点を書いたワークシートを準備しておく。 ● 友達の書き方を参考にできるように，交流する時間を設定する。（必要に応じて） <p>・ 友達と意見は違ったけど，なるほどなと思ったことがあった。</p> <p>・ 話していたら，自分も植田さんと似たことがあることに気が付いた。</p> <p>・ 動物と関わらないところでもたくさんの仕事をしていて，すごいと思った。</p>	<p>文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。 （ノート，ワークシート，発言）</p> <p>※本時では，指導に生かす評価にとどめ，第11時で記録に残す評価を行う。</p>
---	--	--

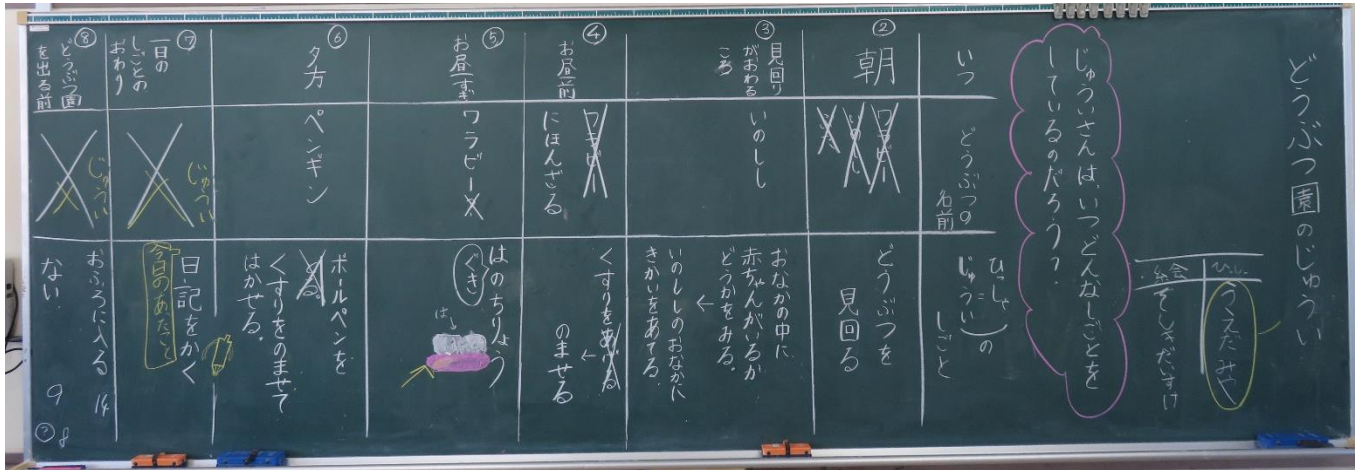
(3) 板書計画

	仕事である		<p>「お風呂に入ること」はしごとなのかどうか考えよう。</p>	<p>どうぶつ園のじゅうい うえだ みや</p>
	仕事でない			

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

- ①文章全体を見渡して学習が進められるよう、教材文をプリント1枚にしたものを配付した。その後、子ども達は教科書と全文プリントのうち、自分に合うものを選んで学習を進めた。
- ②時間的な順序を表す言葉に線を引いたり、筆者の仕事について表に整理したりすることで、事柄の順序を理解し、写真と文章を関連付けながら内容の大体を捉えることができるようにするために、教科書に書いてある言葉にこだわって指導をした。



第7時の板書

- ③文章と自分の経験とを結び付けて感想をもつ際には、スモールステップで感想をもつことができるようにするために、ワークシートを活用する予定にしていたが、子ども達の様子を見て例を示し、その後レベルを設定して書くようにした。そして、レベルごとに書いたら教師の所へ持ってくるようにし、個別の指導を行った。

レベル2	教科書を読んで考えたことを書く。
レベル3	筆者の仕事と似ている自分の体験を書く。
レベル4	レベル2とレベル3をつなげて書く。
レベル5	レベル2～4を踏まえた全体の感想を書く。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

児童の発言を大切にしながら学習を進めていった。スラスラ読めていても、内容を理解できている児童が少なかったため、以下のように「言葉」にこだわりながら授業を行った。

○つまずき①「獣医の仕事」について

「獣医の仕事」を知らない子が約半数いたため、教科書の言葉や写真を確かめたり、自分たちの経験を想起したりしながら、獣医とはどのような仕事をする人なのか確認した。その後、教材文を読み、時間的な順序を意識しながら、「動物園の獣医の仕事」を整理した。

○つまずき②「獣医の仕事」への着目のさせ方

初発の感想を書いたとき、自分の経験は患者の立場のものしかないことから、患者である動物の目線に立った感想を書いている児童が約6割いた。そのため獣医に目を向けられるように、児童とのやり取りの中で、「動物について？それとも獣医さんの仕事について？」と問いかけた。それを繰り返すことで、何に注目して考えるのか、気付く児童が増えてきた。

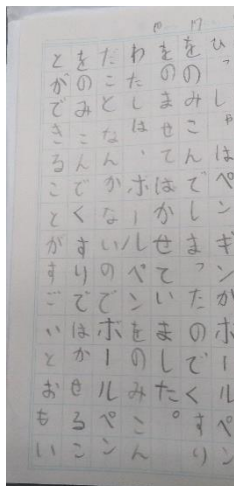
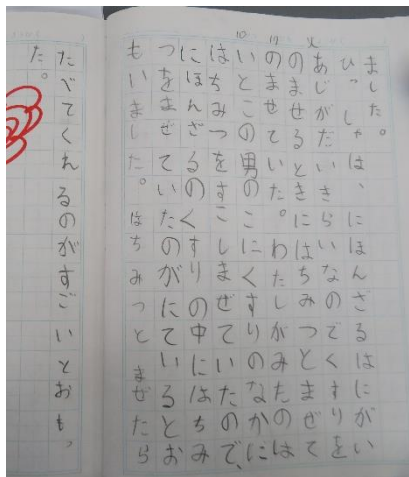
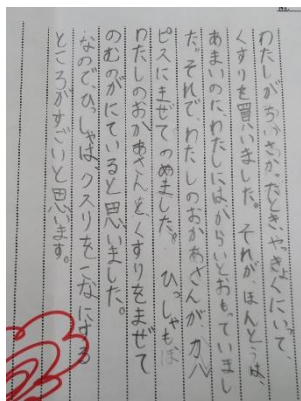
○個別の指導

文章と自分の経験とを結び付けて感想をもつ際に、レベルを設定することで児童が自らの意思で活動に取り組むことができていた。また、教師の所へ持って来る時に、書き方の相談ができたり、

さらに高いレベルに挑戦しないか声かけをすることができたりと、一人一人が目的をもっていた。そのため、ほとんどの児童がレベル5に挑戦することができ、書けた達成感を味わうことができていた。

11 評価の実際

(1) 評価の具体



「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている児童を（B）評価とした。

(2) 児童の評価

- ①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができた児童は、87%であった。ほとんどの児童が言葉に着目して、時間的な順序や事柄の順序を理解し、内容の大体を捉えることができていた。しかし、日本語の理解が難しい児童にとっては、時間を表す言葉は理解できていても、内容の大体を捉えることは難しかった。
- ②「読むこと」において、教材文を読んで、考えたことや気付いたことをまとめる時に、ほぼ全員が文章の内容に関連させて、自分の体験を書くことができた。しかし、それらをさらに結び付けて感想へつなげて書こうとする児童は、87%であり、そのうち文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができた児童は62%であった。

12 成果と課題

(1) 成果

- ・自分の経験と似ていることをたくさん発言していた。その為、自分では気付かなかったことに多くの児童が気付くことができていた。
- ・少しずつ、言葉を意識しながら学びを進められるようになってきている。言葉を意識することで、教科書の言葉を大切に、言い方にこだわる姿が見られるようになってきた。
- ・レベルを設定することで、児童自身で目標を決め、学習を進めることができた。

(2) 課題・今後に向けて

- ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ経験を増やしていく。
- ・「楽しく書く・書きたいから書く」ということを繰り返していき、少しずつ目的に沿って書くことが出来るように、児童の力をどのようにつけていくのか、1年を見通して考えていく。
- ・読む視点をもって読めるように、教師が何にこだわって学習をしていくかを明確にしておく。そのために、自分自身が教材について理解を深めていく。
- ・児童が力をつけるために、繰り返し取り組めるような単元計画を立て、児童ができるようになったことを実感できる授業づくりをしていく。